

平成31年度国際ヘルスケア拠点構築促進事業 (国際展開体制整備支援事業)

報告書：全体概要

2020年3月

株式会社野村総合研究所
コンサルティング事業本部
グローバル製造業コンサルティング部
社会システムコンサルティング部

背景と目的

背景

- 新興国を中心に世界の医療・介護市場の急成長が見込まれる中、日本の医療・介護サービス及び医療機器・福祉用具等（ヘルスケア技術・サービス等）は、世界の医療・介護市場において相応の需要を獲得することができるポテンシャルを有している。
- 我が国のヘルスケア技術・サービス等を各国に対し提供していくことは、各国のヘルスケア水準の向上に貢献するとともに、伸び行くヘルスケア分野の需要を取り込むことによって、我が国経済の成長に寄与すると考えられる。また、外国人患者を受け入れることは、我が国のヘルスケア技術・サービス等の更なる充実にも資することが可能である。
- 「未来投資戦略2018」（平成30年6月閣議決定）や「アジア健康構想に向けた基本方針」（平成30年7月改定）等において、我が国の優れたヘルスケア技術・サービス等をアウトバウンド・インバウンドの両面で推進していく旨が明記されており、ヘルスケアの国際展開は経済成長を図る上での重点施策の一つとして明確に位置付けられている。

目的

- ヘルスケア技術・サービス等の国際展開をさらに加速させるとともに、関連産業の振興を促進させることを目的として、本事業では、ヘルスケアの国際展開における様々な課題の解決（海外ヘルスケア拠点の事業主体の創出等）のための現状把握、課題解決策の立案、国内の民間事業者の参画促進等を実施する。

本事業における実施事項

- 本事業では、ヘルスケア技術・サービス等の国際展開を支援する取り組みのうちアウトバウンド・インバウンドに関する調査として、下記の事業を実施した。
- 実施結果の詳細については、別冊の報告書に取りまとめた。

カテゴリ	実施事項
アウトバウンド	1. 新興国の比較と詳細調査対象の絞り込み
	2. フィリピンにおけるプライマリケアの制度・実態調査
	3. インドにおけるプライマリケア・デジタルヘルスの実態調査
	4. モバイルヘルス・SaMDに関する調査
	5. 「医療国際展開カントリーレポート」の作成・更新
インバウンド	6. 医療通訳に関する国内実態把握、海外事例研究
アウトバウンド、 インバウンド	7. 「健康・医療関連産業の国際展開に関する検討会」の実施

各調査の概要 – アウトバウンド

実施事項	実施概要
1. 新興国の比較と詳細調査対象の絞り込み	ASEANをはじめとする新興国のプライマリケア整備において、デジタルヘルス（遠隔診断やモバイルヘルス等）に関する技術の活用や、シンプル医療機器への需要が高まっていくと想定される国を定量・定性情報を用いて、比較・分析した。
2. フィリピンにおけるプライマリケアの制度・実態調査	- フィリピンにおける、プライマリケアの都市と地方におけるニーズの偏在状況を明らかにし、新しいプライマリケア施策の実行可能性を調査・検討した。 - 具体的には、地方と都市それぞれにおける医療の状態を把握し、シンプル医療機器やデジタルヘルスへのニーズと、それらの導入に当たっての規制・障壁、実現可能性の高い販路・ビジネスモデルを明らかにした。
3. インドにおけるプライマリケア・デジタルヘルスの実態調査	インドにおけるプライマリケアの現状を調査するとともに、現在提供されているモバイルヘルス関連のサービスおよびその背景にあるニーズについて調査した。また、調査結果を踏まえて、日本にとっての事業機会等の示唆を抽出した。
4. モバイルヘルス・SaMDに関する調査	- 新興国の医療課題を解決するモバイルヘルス市場において、主にクリニックや在宅医療等のプライマリケアで活用されている機器・サービスの事例を整理し、新興国ならではの特徴を導出すると共に、先進国・新興国の各エリアへ展開を目指す企業にヒアリングを実施し、多エリア展開に向けた課題を抽出した。 - また、ソフトウェア単体で医療機器として機能するSaMDの登場が見受けられる中、その認証の仕組みや制度、開発の状況についての動向と事例を整理した。
5. 「医療国際展開カントリーレポート」の更新	経済産業省がこれまでに公表している「カントリーレポート」について、マクロ経済や医療分野に係る統計等を最新情報に更新した。

各調査の概要 – インバウンド、検討会

実施事項	実施概要
6. 医療通訳に関する国内実態把握、海外事例研究	・ インバウンドにおける医療通訳の円滑な確保のための支援策検討、産業としての医療通訳ビジネスの可能性の検討に資する知見を得ることを目的とした調査を行った。 ・ 国内実態把握では、インターネット・データベースによる医療通訳事業者調査と、インタビュー調査を実施した。 ・ 海外事例研究では、複数国の外国人患者受け入れに積極的な医療機関における、医療通訳提供の状況を把握した。
7. 「健康・医療関連産業の国際展開に関する検討会」の実施	・ 健康・医療戦略の改訂を控え、ヘルスケア産業の国際化について、これまでの取り組みを総括するとともに、幅広いステークホルダーの意見を聴取し、新たな方向性をとりまとめることを目的として、2回の検討会を開催した(アウトバウンド・インバウンド)。 ・ またアウトバウンドについては、幅広い主体による取組の現状及び政府の役割に対する要請を整理することを目的として、ヘルスケア関連事業者向けのアンケート調査を実施した。

参考)アウトバウンド調査の背景と目的

背景

- 2018年度のアウトバウンド調査(マレーシア調査)では、同国にてプライマリケアの充実が最優先課題と捉えられており、そのための各種クリニックの設置が進められていることが確認された。
 - ✓ 例えば「ワンマレーシアクリニック」と呼ばれる新しいプライマリケア施設は2010年ごろから都市部も含めて設置されてきており、医師は配置されておらず、極めて基本的な助言や処方を実施している(新政権下で、新たな名前で充実化される予定)。それらのクリニックでは、簡易なトレーニングのみを受けた非専門家が扱える機器のニーズがあることが明らかになった。
- また、中国においては、遠隔診断と薬の自販機を組み合わせた施設が登場しつつある(ワンミニッツ・クリニックや康美スマート薬局など)。これらの事例は、ASEAN諸国でも参考にされている可能性がある。
- ASEANをはじめとする新興国でのプライマリケア整備については、新たな潮流が出てきている(または今後出てくる)可能性がある。これらのプライマリケアにおいては、デジタルヘルス(遠隔診断やモバイルヘルス等)に関する技術の活用や、後述の「シンプル医療機器」への需要が高まっていくと想定される。

目的

- 以上の背景を踏まえて、「ASEANを中心とした新興国におけるプライマリケア」に主眼を置き、下記2点を調査する。
 1. プライマリケアの整備に関する動向やニーズの把握
 2. プライマリケアに関連したデジタルヘルスに関する最新動向の把握

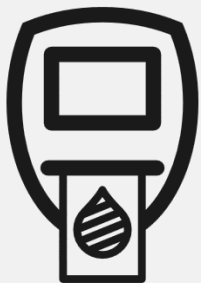
参考)「シンプル医療機器」とは

「シンプル医療機器」とは？



- シンプルで、以下のような性質を備えた機器を「**シンプル医療機器**」と定義(2018年度の本事業において定義):

- ✓ 非専門医でも容易に使用できる
- ✓ 電源などが不安定な状況でも使用できる
- ✓ ポータブル
- ✓ メンテナンスが容易
- ✓ 安価 等



- 以下のような、特にプライマリケアで必要とされるような機器が具体例として想定される
- ✓ ポータブル画像診断装置
- ✓ POCT (Point Of Care Testing) と呼ばれる小型分析器、迅速診断キット 等

昨年度(2018年度)の調査の示唆

- 2018年度の本事業において、「シンプル医療機器」へのニーズについて、マレーシアを対象に現地調査を実施
- 結果として、プライマリケア充実化に際してのシンプル医療機器のニーズがあることが確認された
- 特に地方において、一定の需要があることが確認された